

(別紙4)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472200308	
法人名	医療法人 福島会	
事業所名	グループホームあさひ	
所在地	三重県 三重郡 朝日町大字小向2064番地1	
自己評価作成日	平成21年 8月24日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472200308&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 9 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が歯科医院であるため、月に2回歯科衛生士が口腔指導、嚥下訓練、口腔体操を行っており、口腔衛生に力を入れている。
当ホーム設立から5年経過し、少しずつではあるが町の行事や当ホームでの行事を介し、地域との交流も深まってきている。
また、当法人のホームページより、各施設の職員が作成したブログが見られるようになっており、各施設の取り組みの様子が分かるようになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

朝日町にある唯一のグループホームである。昨年同一敷地内に有料老人ホームが併設され、事業所はその奥にある。母体が歯科医で特に口腔衛生に力が入れられている。周辺は事業所の北側に幼保一体の町立幼稚園がこの秋開園予定があるなど、住宅地と田園が混在する静かな環境下にある。利用者自慢の書や絵などが飾られあたたかい雰囲気のある事業所である。庭が広く、家庭菜園やお花が作られて草取りが大変といいながら、利用者、職員ともに作業に精を出し、コミュニケーションが図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり 楽しく 家族のように」「全ての人に微笑を」という事業所独自の理念を掲げている。理念の中に地域と言う言葉はないが、利用者と温かい関係を築き、孤立せず生活できるよう支援し、実践している。	「ゆっくり楽しく・・・」「すべての人にほほえみを」の理念は玄関、事務所になめらかな書でかかれて掲示しており、職員もよく理解し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の折に挨拶したり、町の行事にはできるだけ参加している。また、ホームの行事に地域の方の参加もあり交流している。	地域の行事(町主催の敬老会や福祉感謝祭等)に参加したり、事業所が秋祭りを催し、地域の方に来ていただくなどできるだけ地域の中に溶け込むよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献までには至っていないが秋祭りへ参加していただくことが、利用者の方の生活の様子を見て理解を深めていただく機会になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者とは話し合ってもらい、様子を見てもらう中でサービスの実際や取り組み状況を把握してもらい、アドバイスをいただいている。	メンバーに地域の代表として介護モニターの方に参加してもらっているため、その訪問日にあわせて運営推進会議を毎月開催している。ボランティアの派遣や餅つきの協力などをしてもらっている。	運営推進会議には行政もしくは地域包括センターの職員の参加が必須であり、自治会、老人会や民生委員の各代表など幅広くメンバーに加わってもらい運営推進会議が活かせる事業所になるように期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居希望者の紹介や、地域行事への参加、また、困難事例の相談をし、協力関係を築いている。	介護保険の認定調査、また事業所への入居希望の紹介などで行政とはよく連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解できるよう、話し合いをもっている。玄関の施錠はやむを得ず行っている。	言葉での拘束、身体拘束をしないケアをめざしているが、不穏な方があって玄関やテラスへの出入り口に施錠がされている。	利用者、家族とも相談し、時間帯等を考慮しながら鍵をかけずに安全に過ごせる工夫を重ねるよう期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての学習はできていないが、どのようなことが虐待につながるかについて話し合い、そのようなことがない様、注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度や事業について社会福祉協議会の職員から学べるようにしており、理解はしている。しかし、職員はそれらのことを学ぶ機会は作れていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容を十分に説明し、理解納得していただけるように時間をとっている。また、不安や疑問があれば、いつでも連絡していただくようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や要望をケアの中で聞いている。外部へは介護相談員の訪問があるため、利用者の気持ちを聞いて、文書や口頭で伝えていただいている。ご家族の方は、面会時や電話などで意見を伺っている。	面会時などによく話を聞くようにしている。また意見にはきちんと説明して理解を得るように対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員の意見を聞き、それを運営者に伝えるようにしている。	会議や申し送り、ノートなどで意見を出し合い提案がされ、ホーム長から施設長、代表者に伝えサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員と連絡を取り合い、現状を把握し、改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握しているが、定期的な研修やトレーニングをしていくことまではできていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会があれば、参加しているがネットワーク作り、相互訪問の活動はしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の、ご本人との面談時間は少なく家族の希望優先になりがちであるが、入居による不安や混乱がないよう、本人の要望を傾聴し、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の実情を十分に聞くことで問題点の洗い出しや、不安解消につながる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居になった段階で、本人と家族が必要としている支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の性質や好みを尊重し、一緒に洗濯物を干したり、食事を作ったりしている。買い物好きな方は、一緒に出かけ信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には最近の様子など伝えている。また、心身の変化が見られるときは、家族に連絡し、相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の思いをよく聞き、よく理解し、関係の継続を支援していけるよう努めている。友人の訪問や電話での近況報告など気兼ねなく行えるよう支援している。	友人が訪ねてきてくれたり、電話や手紙でのやりとり、また携帯を持って自由に使われたりしている。お墓参りや行きつけの美容院へ行くなど、利用者の希望にそった支援がされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で好みや性質を理解され、それぞれ友好関係ができているが、耳の遠い方が孤立してしまわないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された利用者や家族も希望があれば関わりをもち、行事へ招待するなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や表情から、本人の思いや考えを汲み取るようにしている。被害妄想の強い方には、希望を聞き、納得していただけるよう支援している。	丁寧な思いを聞くようにしている。外食で鰻を食べたり、回転寿司に行くのも利用者の楽しみになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から、入居されるまでの暮らしぶりを聞き取り、できる限り、その生活に近い生活リズムを作ることができるよう努めている。毎日買い物に出かけていた方には、外出の機会を作るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に記入することにより、日々の様子を全職員が確認できるようにしている。また、利用者の変化に気付いた職員は申し送りノートに記録し情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で利用者の状態、また、利用者本人や家族との会話の中から思いを聞き取り、現状に即した介護計画を作成している。	担当制にしており、それぞれ職員がモニタリングで評価記録に記載し、申し送りノート等を参考にし各ユニットのリーダーが家族の意見を聞いたうえで計画書を作成し、職員に周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や日々の様子のちょっとした変化や気づきを個別記録に記入し、情報を共有して実践に生かしている。また、定期的な課題の見直しをして、現状にあったケアプランを作るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、希望を聞き、必要と思われるリハビリ支援や専門医受診など取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「秋祭り」「餅つき大会」等、行事の折に民生委員の方や地域のボランティアの方が参加し協力して下さっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、今までのかかりつけ医への受診を希望される場合は、それに合わせている。特に希望のない方については当事業所が協力病院としている病院をかかりつけ医としてもらっている。	従来のかかりつけ医での受診、協力医療機関の医師の往診が月に2回、歯科医の往診が月に2回定期的にある。それぞれの状態に応じた医療支援がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者の体調の変化や気付きを看護師に伝え、相談し、受診できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院との情報交換は密に行っており、早期退院できるように相談している。また、入院先の病院にサマリーやホームでの様子を伝え、協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応や終末期のあり方は、入居時にも聞いているが、必要と思われるとき、往診時に家族の方に立ち会ってもらい、今後の方針を共有するよう取り組んでいる。	往診もあり、できるだけことはしたい意向であるが、医療行為など伴うなど看取りには医師や家族と相談し、その都度の対応を考えている。	看取りの指針を早急に作って、事業所の方針を本人家族、職員が共有されるように期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救命講習を受講し、初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者の避難誘導や、初期消火の訓練を同法人の有料老人ホームと協力して行っているが、地域の人々との協力関係はできていない。	同一敷地内の有料老人ホームと合同で年に2回消防署の指導を受け避難訓練を実施している。今年6月に夜間を想定した火事での避難訓練をしている。	手薄な人員体制となる夜間における各種災害(火災・地震・風水害)においても具体的な対策(避難方法、通路の確認、地域への協力依頼等)を立てておかれる事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライドやプライバシーを損ねない言葉かけの仕方や対応を職員同士で話し合い、一人ひとりに合わせた言葉かけや対応をしている。	「ゆっくり楽しく・・・」「すべての人にほほえみを」の理念が利用者への対応の心がけとして人格を損ねない言葉かけをしている。書類等は事務所で保管がきちんとしてされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思い、希望が表すことができる雰囲気作りをしている。誕生日などに、本人の希望を聞き、好みの料理を作ったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間などの一応決まった時間帯はあるが、個々の利用者のペースがあるため、そのペースを尊重して生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、訪問美容の方に来てもらい、利用者それぞれが、好みの髪型にしてもらっている。季節に合ったその人らしい洋服を選んでもらっている。選ぶことが困難な方は、職員が介助し一緒に選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は決まったメニューの食材を配達業者に依頼しているが、お寿司やうなぎなど好みの外食も行っている。野菜切りや盛り付け、後片付けを一緒に行っている。	食材業者の栄養士による献立の食材が配達されている。調理、配膳、下膳は利用者と共にしている。朝パンにしたり時折はお好み焼き、焼きそばなど利用者の希望を取り入れている。自家菜園で収穫した野菜は食材として活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事摂取量を記録し、食べる量や栄養バランス、水分量を一人ひとり把握している。自らのどの渴きを訴えられない方には、こまめに水分補給の声かけを行っている。体調や咀嚼の状況に応じて、お粥や刻み食にして食べやすくしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の歯科衛生士の個別の口腔指導がある。自分で行える方は本人に任せているが、困難な方は介助している。面倒くさかったり、忘れてしまう方には声かけし、見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意を訴えられなくなった方に定期的なトイレ誘導を行うことにより、トイレでの排泄を習慣づけている。	トイレでの排泄をめざし、様子などを察知して誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に牛乳・繊維質の物を使用した食事やおやつを心がけている。また、排便チェック表を作成し、排便状況の把握をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴休日は決まっているが、時間帯は一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんでいただけるよう配慮している。	入浴は週に2日、ユニット交互に休んでいる。時間は午前、午後にかかりゆっくり入浴してもらっている。事業所での入浴困難な方は、隣接の有料老人ホームの機械浴を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めず、休息したり、テレビを楽しまれたりと個々のペースで入眠していただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を事務所に保管し、いつでも確認できるようにしている。また、薬が変わったときは、家族に連絡し、職員には連絡ノートに記入し職員全員が確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いや一人ひとりの力を生かした役割をお願いしている。また、短歌作りや新聞を読むことが日課になっている方もある。やりがいや楽しみを感じて生活していただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭や近所への散歩は、できるだけ行っている。花見など季節ごとの外出も行っている。その人の希望にそった外出は家族に相談、協力いただいている。	日課になっている散歩や買い物は利用者の楽しみである。テラスから外気浴を楽しむこともある。時折、伊坂ダムや木曾三川公園まで遠出をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの状態に応じて、小額の金銭を管理していただき、買い物や喫茶外出時に使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者の希望に応じて、使用できるようにしている。手紙やハガキは希望されたとき対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が気持ちよく過ごせるよう配慮している。庭に咲いている花を利用者が活けたり、手作りの作品を飾ったりとくつろげる工夫をしている。	リビングに穂をつけたすすきや季節の花が生けられて清々しい。リビングには新聞や本などが置かれている。梁のある天井も高く明るく、気になる臭いもない。利用者の書や絵などが飾られ優しい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で読書できるスペースや、気のあった利用者同士でお茶やおしゃべりを楽しめるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や家族の写真を飾ったり、仏壇をもってきてもらったり、自宅での生活に近づけるよう工夫している。	利用者の手作りの刺し子の暖簾が居室入り口に飾れ、思い出の写真や事業所へ面会にこられた家族や親族と写った写真がいくつか飾られており、それぞれ思い思いの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや食堂の座席は混乱なく、利用できている。視力低下がある利用者には、安全に注意し、声かけ見守りしている。		